

(地Ⅲ134F)

平成 23 年 9 月 22 日

都道府県医師会・都市区医師会
感染症危機管理担当理事 殿

日本医師会感染症危機管理対策室長
保坂 シゲリ

季節性インフルエンザワクチンの供給量について

今期のインフルエンザワクチンの供給の遅延につきましては、9月12日付文書(地Ⅲ128)をもってご連絡申し上げましたが、今般、北里第一三共(株)が再試験を実施した結果、トリレオウイルスの混入が判明し、同社で当初製造が予定されていた約478万本のうち、約236万本が出荷できない状況になり、添付のとおり厚生労働省から報道発表されました。

現時点では、需要予測に基づく近年の供給実績、使用実績等を勘案すると、今シーズンの需給への影響は少ないものと考えられるとしておりますが、厚生労働省としては各都道府県等に対し、分割納入、在庫量の把握などを求めるとしております。

各医療機関におかれましては、予約に基づく適切な数のワクチンの購入等にご協力いただきますよう貴会会員に対して周知いただきたく、ご高配のほどよろしくお願い申し上げます。

なお、今後も供給状況につきましては必要に応じ情報提供してまいります。

小郡三井医師会より

予防接種担当理事 松行眞門
会長 蒲池 壽



Press Release

平成23年9月22日

医薬食品局血液対策課

(担当・内線) 課長 三宅(2900)

丈達(2901)

今井(2907)

(電話代表) 03(5253)1111

(電話直通) 03(3595)2395

報道関係者 各位

季節性インフルエンザワクチンの供給量について(第2報)

9月12日に、北里第一三共ワクチン(株)(以下「北里」という。)の季節性インフルエンザワクチンの一部に、品質試験で不適合の可能性があることをお知らせしました。

その再試験の結果、トリレオウイルス(※)の混入が確定し、約236万本分の季節性インフルエンザワクチンを出荷することができなくなりました。その結果、今シーズンのインフルエンザワクチンの供給予定量は約2,700万本となります。

現時点では、需要予測やそれに基づく近年の供給実績及び実際の使用実績を見ると、今シーズンの供給への影響は少ないものと考えられます。一方、インフルエンザワクチンが混乱なく安定的に供給されるよう、各都道府県等に分割納入、在庫量の把握体制や医療機関の在庫状況の住民への周知体制の確立等の徹底を求めます。

また随時、情報提供を行っていく予定です。

【参考】

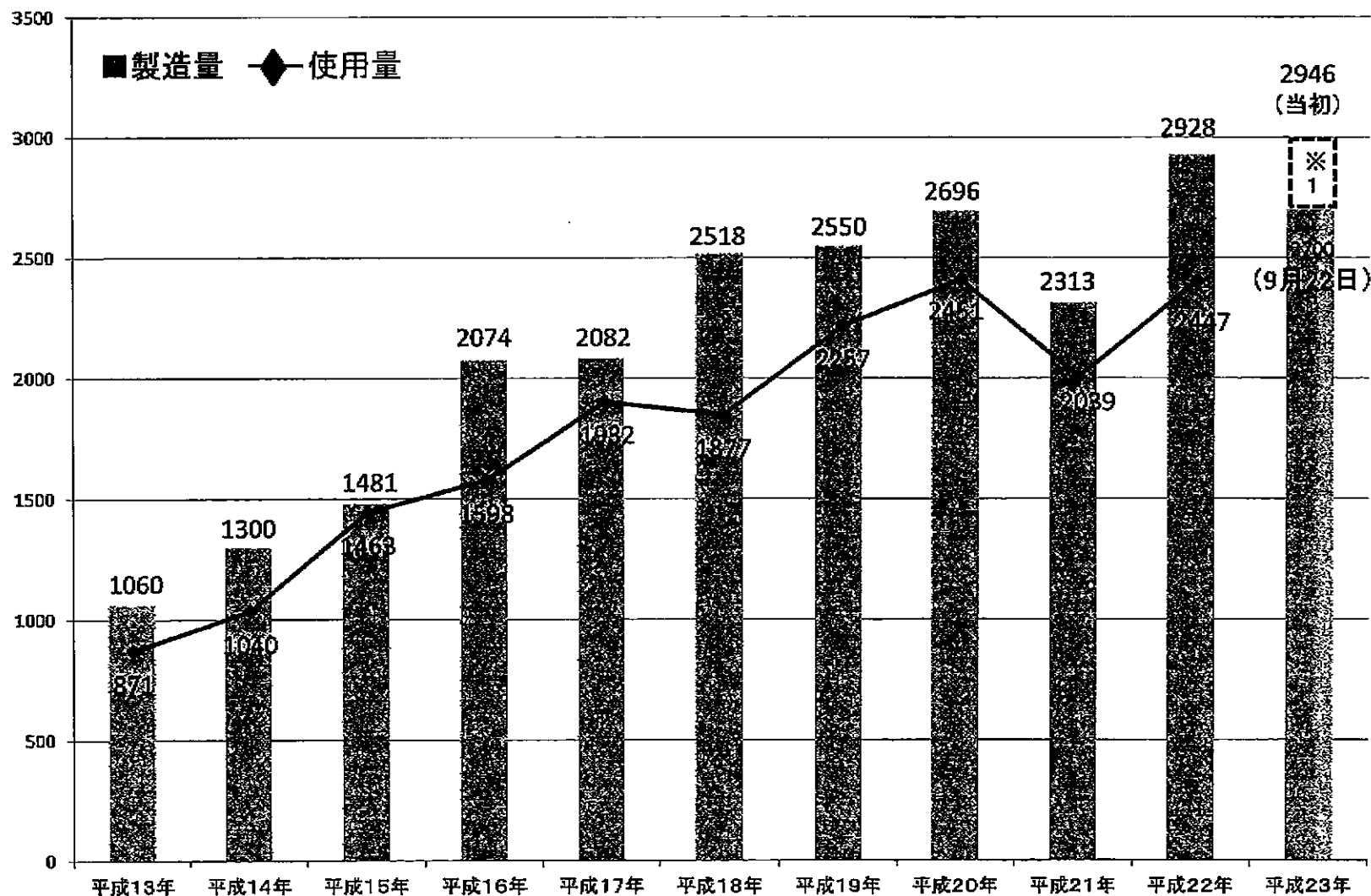
1. 今シーズンのインフルエンザワクチン供給予定量: 約2,700万本
2. 今シーズンのインフルエンザワクチン需要予測: 約2,771万~2,798万本
3. 北里の製造予定量: 約242万本

(※ トリレオウイルスは、トリの関節炎の原因ウイルスです。ヒトに対する病原性は知られていません。)

【数量:万本】

インフルエンザワクチン製造量及び使用量の推移

平成23年9月22日



※1 平成23年度の供給予定量は約2,946万本であったが、北里第一三共ワクチン(株)の供給量減少により、9月22日時点の供給予定量は約2,700万本。【年度】

※2 1ml換算。